

丸山の講義録をめぐる

「丸山眞男文庫協力の会」メンバー・東京大学教授 平石直昭

丸山眞男文庫には、多くの自筆草稿類が収蔵されている。そのなかでも圧巻の一つは、丸山が主に東大法学部での講義を準備する過程で作成したノートや原稿類である。これにも色々の時期や分野のものがあり、その全貌はまだ明らかになっていない。執筆時期の比定や資料の相互関係の解明など、調査が進行中である。

ただ生前の丸山は、歴年講義のうちの何年分かに関しては、講義録という形で公開する意思をもっていた。その遺志に沿って、残された講義準備ノートや原稿類などを使いつつ、逝去後に刊行されはじめたのが『丸山眞男講義録』である（全七冊、東京大学出版会刊、昨年十一月完結）。

私が編集に携わった六〇年代半ばの講義についていえば、講義用草稿ノートが十一冊、テーマ別に史料をかきぬいた史料ノートが十九冊、他に講義を聴いた学生が東大出版会教材部と契約して作ったプリントに、丸山が書き入れた資料も相当数残っている。ノートは同じタイプ

のルーズリーフ式で、後から付加したりファイルしなおした部分がある。推敲のあとが甚だしい箇所もある。講義にかけた丸山の熱意と精進が、ひしひしと見る者に伝わってくるような原資料である。

日本政治思想史の分野で丸山は、『日本政治思想史研究』など多くの著書を公刊した。しかしそれらは、特定のテーマに焦点をあてて分析した論文を後に書物の形にまとめたものであり、最初からある構想に基づいて日本政治思想史の全体的関連を分析したものではない。

その点で講義録は、丸山の日本政治思想史の全体像を窺うものとして貴重である。そこに示された全体像は、誰も無視できない学問的達成として、また読者に問題発見の示唆を与える業績として、古典的な位置を占めることになるう。

さらに思想家としての丸山理解のためには、日本政治思想史に対する彼の方法や関心の変化をみるのが不可欠であり、それには戦後すぐの時期からの歴年講義の綿密な跡づけが必要である。丸山文庫には

そのための資料が揃っており、その価値は非常に高いといっている。
 『東京女子大学学報』五五五号、二〇〇一年一月号所収

Confucianism. { 1. system of doctrine and learning scholarly learning
 2. Political Ideology (and Social) (to be more or less intentionally indoctrinated)
 ③ 3. Conceptual tools with which people perceive the world.
 しめ民間における活々の(学)形成とその間の論争が盛んにな
 るといった新たな事態の展開を求めたことにある(た)ボ
 の場合においても儒学の学問としての理解の普及とイデオロギー
 としての儒教観念の通俗化とは厳に区別されて然るべきである。
 唐虞三代のこれを学問としての儒教がそれほど広くは理解されていなかった
 漢・魏・晋の頃から直ちに儒教は幕藩体制下で大きな位置を占めるものでは
 なかったという見解もでてくるわけであるが今、学問としての儒
 教とイデオロギーとしての儒教とを区別することによりそのよう
 な結論に理論を試みようとするものがある。勿論前本の如き政治

丸山氏による書き込みのあるプリントの一部(一九六七年度の講義「日本政治思想史 II」第二章から)